なにそれ!?
介助付き就労

NANISORE!?

なにそれ!?
介助付き就労

一般社団法人わをん

KAIJOTSUKI SHURO

目次

介助付き就労の「今」を知ろう

3　重度身体障がい者の一般就労　就労制度の歴史
5　わたしたちの「はたらく」 今と目指す未来
7　「はたらく」にまつわるみんなの経験
11　自分を支えるものを増やそう！
15　介助付き就労への４つの課題

いろいろな働き方を知ろう

17　上野美佐穂さん（イルカ保険サービス合同会社）
23　登り口倫子さん（日本語教師）
29　川端舞さん（フリーライター）
35　A さん（地方公務員）
41　國光良さん（大学職員）
47　日髙美咲さん（㈱エバーライフ）
53　介助が必要な仲間を迎えてわかったこと（㈱エバーライフ）
57　障がいと健常、ふたつの立場から見るライターという職業
　　対談：川端舞×篠田恵

もっと深く掘り下げてみる

61　教えて！藤岡弁護士！
　　なぜ重度訪問介護は就労時に使えないの？
67　みんなの「はたらく」座談会

「はたらく」に向けて動き出してみる

75　就労支援特別事業を使うには！？
77　就職活動につかえる自分説明書をつくろう！
　　～新卒学生就職活動編～

本冊子で使う用語の意味

介助付き就労

生活動作（食事、トイレなど）や業務補助（PC 操作、読み上げなど）に介助を付けながら働くこと。仕事中に必要な介助のために公的な制度を組み合わせる、家族や友人、同僚の手を借りる、またどんな働き方をするかは、さまざまです。

重度身体障がいのある人、当事者

肢体不自由により、日常生活動作（ADL）が一人では不可能、もしくは長時間かかり、著しく体力を消耗する人のこと。事故でケガを負った、生まれつき難病があるなど理由はさまざまです。人工呼吸器を着けている、言語障がいがあるなど、身体の状況も人によって違います。同じ人でも加齢で状況は変わるし、天気や気温、心のあり方で身体の動きが変わることもあります。生まれた家庭の事情も違えば、子どものころに特別支援学校（養護学校）に通い寄宿舎や病院にいた人も、実家から普通校に通った人もいます。

はたらきたい。

シンプルな願いだけど、
一筋縄ではいかない現実が、
わたしたち重度身体障がい者の目の前に
立ちはだかっています。

日常的に介助が必要なわたしたちには、
勤務中に介助を受けながらはたらく「介助付き就労」が必要です。
でもそれは、今の日本社会では想定されていない、
特別なこと。

重度訪問介護が仕事中につかえない。
会社のルール上、介助者を付けてはたらくことができない。
そもそもわたしたちの存在を知らない。

そんな今の社会を変えるために、
わたしたちはこのハンドブックを作りました。

はたらくために使える公的な制度、
当事者や企業の方のリアルな声、
そして、一歩踏み出すための
ヒントを詰め込みました。

「はたらきたい」と思っている
重度身体障がい者だけでなく、
企業の方々、学校の先生、支援者のみなさん、
これからの未来を作っていく人たちに読んでほしい。
そして一緒に考えてほしい。

「はたらきたい」と思っただれもが、
自由に安心してはたらける社会にするために。
夢をあきらめなくてもいい社会にするために。
わたしたちの想いがたくさんのひとに届くよう、
願いを込めて。

重度身体障がい者の一般就労

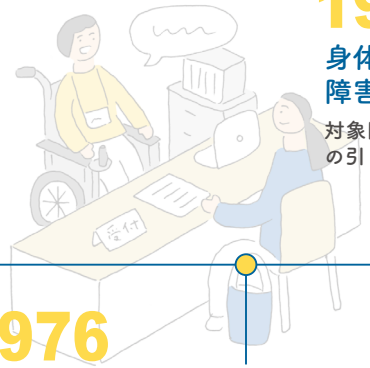
就労制度の歴史

日本の障がい者就労に関する制度は、国際的な潮流に合わせ作られてきました。
ただ、介助付き就労を支える仕組みは十分とは言えません。
重度身体障がい者の一般就労に関する就労制度の歴史を見てみましょう。

参考文献：「障害者とともに働く」藤井克徳・星川安之著（岩波書店）

1960
身体障害者雇用促進法が成立

ILO（国際労働機関：International Labour Organization）勧告を受けて障がい者政策が雇用にも広がったが、効力は限定的



1976
雇用率制度と雇用納付金制度ができる
（身体障害者雇用促進法改正）

雇用率制度
一定規模以上の事業所（現在は従業員 43.5 人以上を雇用）には、全従業員に占める障がい者の割合が法律で決められている（現在、民間企業では 2.3％）

納付金制度
民間企業で法定雇用率が達成できない場合、1 人不足につき月額 5 万円を国に納めるペナルティ制度。納付金は、調整金や助成金などのかたちで障がい者雇用に熱心な企業に支給される

重度身体障がい者（障害者手帳 1 級、2 級）は 1 人の雇用が 2 人分としてカウントできる

1987
身体障害者雇用促進法が、障害者雇用促進法と改称

対象障がいの拡大と、法定雇用率の引き上げが徐々に進む

2006
国連「障害者の権利に関する条約」採択

第 27 条で「障害のある人々が他者と対等に働く権利」を定める。日本は 2014 年批准

2013
障害者権利条約を受け、雇用における差別禁止と合理的配慮が義務化
（障害者雇用促進法改正）

合理的配慮
障がい者が直面する社会の障壁を取り除くために、事業者が負担の重すぎない範囲で対応すること

2020
就労支援特別事業ができる

正式名称は「雇用施策との連携による重度障害者等就労支援特別事業」。通勤・勤務中の介助費の大半を国と自治体が負担する。P.14,75 参照

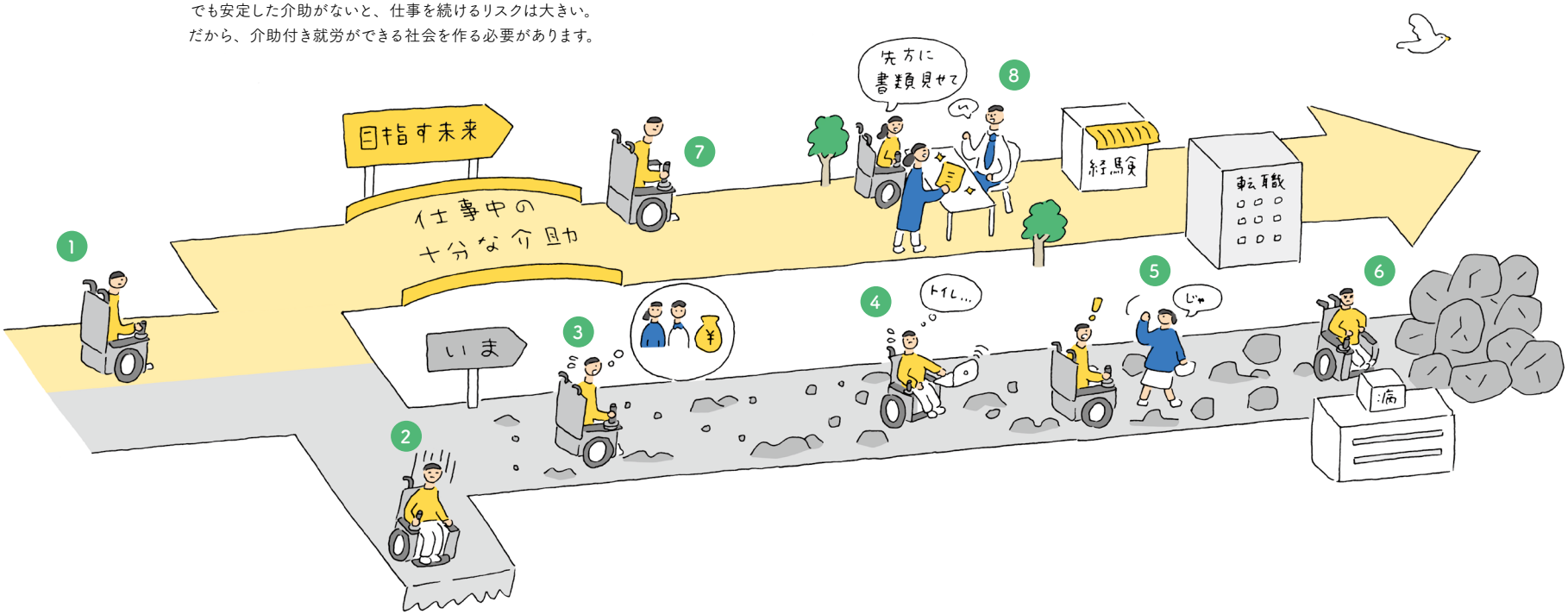
法定雇用率制度における実雇用率のカウント方法

週所定労働時間		30時間以上	20時間以上30時間未満（短時間労働者）
身体障害者		1	0.5
	重度	2	1
知的障害者		1	0.5
	重度	2	1
精神障害者		1	0.5（※）

※例外あり

わたしたちの「はたらく」今と目指す未来

一般企業、公務員、起業、フリーランス、NPO／NGO……。
私たちが働ける先は、社会にたくさんあります。いま働いている人もいます。
でも安定した介助がないと、仕事を続けるリスクは大きい。
だから、介助付き就労ができる社会を作る必要があります。



①生活介助を整える
通勤に公的介助を付ける場合には、重度訪問介護（P.12 参照）等の公的制度利用が前提。介助者への指示出しや関係構築に慣れる視点からも、まず生活介助の整えが必要です。

②仕事を諦める
仕事中の介助者を企業側が用意するには、コストがかかる。公的助成制度を使っても、事務手続きがとても煩雑。健常者と競合する一般就労は不利になり、諦めることも。

③仕事中の介助を決める
家族や同僚に頼るか、手続きが煩雑で雇用主側に頼まないと使えない公的助成制度か、自費で雇うか、介助なしか。現状では、不十分な選択肢から選ばざるを得ません。

④危険と隣り合わせ
助成金が使えない、家族がいないなどの理由で介助なしの場合、トイレや人工呼吸器の管理を我慢すると、健康を損なったり、生命の危険と隣り合わせだったりします。

⑤介助が不安定になる
仕事中の介助をしていた家族の高齢化、手助けする同僚の異動や退職、担当ヘルパーの急な病欠などで、突然介助が不安定になることも。慢性的なヘルパー不足も課題です。

⑥退職や収入減
仕事中に十分な介助保障がなく身体に負荷がかかり、二次障がいやケガを抱えることも。その他、さまざまな理由でキャリアが中断してしまう可能性があります。

⑦仕事中の十分な介助
「十分な介助」は人よってさまざまです。同僚や家族に頼む方が良い場合も。ただ、地域に十分なヘルパーがいて、公的な介助保障があれば、どんなときも対応できます。

⑧継続と経験
身体に負荷をかけすぎず、介助不足に悩まされることなく仕事を続けられます。成功も失敗も経験を積み、転職やキャリアアップも叶います。

「はたらく」にまつわる みんなの経験

重度身体障がいのある人たちの
「はたらく」にまつわる経験をオンラインで集めました。

※回答は趣旨を変えない程度に編集してあります。
なお紙幅の関係上すべての回答は紹介できないため、
その他の回答は当団体 note でご覧ください。

▼noteはこちら

これまで 3 つの企業で働いた経験がありますが、
障がいの状況により
できる仕事かどうかで決まってしまい、
意欲や興味で選んだことはありません。
40 代・通勤の一般事務・仕事中に介助なし

家族が高齢になり、以前のように介護してもらえ
なくなったので、働ける時間が減りました。
重度訪問介護を使う時間が増えた分、
仕事ができないからです。いつか仕事を失います。
40 代・在宅でフリーのイラストレーター

研修や出張に
介助を利用できず、
他の社員のような
スキルアップが難しいです。
介助付き就労が実現したら、
泊まりがけの出張をしたい。

30 代・一般事務
在宅勤務の休憩時に公的介助利用
出社時は同僚が簡単な介助

短時間でも働き、重度障がい
者の働く意欲を初めて知った
人も少なくありませんでした。
でも家族介助がないと
長時間勤務は難しく、
この先自立が非常に不安です。

20 代・OriHime で遠隔接客業
在宅事務員・仕事中の介助なし

生理中のトイレが
完全に自立していないので
今はオムツで対処していますが、
人知れずの苦戦を
職場の人は知らない。
そんな当たり前に
孤独を感じることもあります。

20 代・通勤のソーシャルワーカー
仕事中は同僚が簡単な介助

介助付き就労が実現したら、
社会福祉士の仕事が
できると思います。
今は、資格取得している
障がい者がけっこういるのに
働ける場が少ないです。

40 代・就労なし

仕事中に
必要な介助がなくて
体調を崩したり、
介助利用の働きかけで
労力を使ったり、
時には出費もあるので、
働く過程や就職活動で
不安に押しつぶされそうです。

30 代・在宅でパートの相談業務
仕事中は家族介助

地方での就労が目標ですが、
（身体障がいのある人の）
事例がありません。
地方は電車がないので
車移動が欠かせません。
介助付き就労が実現したら、
車で移動しオフラインで
働けると思います。

10 代・就労なし

自分を支えるものを増やそう！

介助付き就労に向けて使えるもの一覧

通勤に公的介助を付ける場合には、重度訪問介護（以下、重訪。P.12 参照）等の公的制度利用が前提になっています。介助者への指示出しや関係構築に慣れる、また自分に適した介助を知っておくという視点からも、介助付き就労を始めるにはまず、重訪等の公的制度を使い生活介助を整えておくと良いでしょう。

とはいえ残念ながら現在、重訪などの公的制度は、当事者側が行政に必要性を明確に説明、交渉したり、雇用主側に事務手続きを頼んだりと、負担が大きいものが多いです。まずは自分のやりたいこと・実現したい目標をよく考えてみて、自分に必要な支援を得るべく、まわりの人と相談しながら動いていきましょう。介助付き就労に向けて使える、公的な制度・機関や当事者の自主的な組織、民間サービスをまとめました。

障がい当事者団体 | 民間組織

対象 すべての人

全国各地に障がい当事者の団体がある。たとえば自立生活センター（CIL）は、行政交渉や地域生活の支援をしたり、自立生活の心構えを助言したりする当事者の自主的な組織。当事者が経営するヘルパー派遣事業所で、助言をもらえることもある。

相談支援事業所 | 公的機関

対象 障がいのある人や家族など

障がい者の生活支援の相談、国や自治体の各種福祉制度の情報提供をする公的機関。とくに「計画相談」は利用計画を作るだけでなく事業所間調整などもしてくれるため、複数の事業所を使うことが多い重度身体障がい者にとっては、身近な存在になることも。

重度訪問介護 | 公的制度

対象 原則 18 歳以上（※）で重度の肢体不自由または知的、精神障がいのある人

生活面の介助を提供する国の制度の一つ。移動、入浴のように介助内容の制限がなく、長時間介助者を付けられる。ただ、利用の必要性を自治体に説明、交渉する必要のある場合が多い。最初は介助者派遣の時間数が少なくても、徐々に増やしていける。

※ 15 歳以上の障がい児も、児童相談所長が認めた場合は利用可

▼仕事を探したい・作りたい

エージェント | 民間企業

対象 障がいのある人

障がい者向けの求人紹介や企業説明会、個別相談などが就職（転職）活動の参考になる。新卒学生向けに特化したものもある。

ハローワークの障がい者窓口 | 公的機関

対象 障がいのある人

企業等の紹介や、採用面接同行などの支援を受けられる。障がい者枠だけでなく一般枠への応募も可能。

トライアル雇用助成金 | 公的制度

対象 それまで就労経験のない職業に就く、2 年以内に離職または転職が 2 回以上あるなど、一定の条件を満たす障がい者を雇う企業

原則 3 か月間有給で企業で試しに働ける「トライアル雇用制度」。障がいのある人は、ハローワークや地域障がい者職業センターを通して、申し込む。対象者 1 人につき月額 4 万円～が企業に助成金として支給される。短時間勤務向けの助成金もある。ただ、助成金に応募している企業以外は使えないので注意。

▼通勤や勤務中に介助を受けたい

職場介助者助成金 | 公的制度

対象 週 20 時間以上働く（在宅含む）重度の障がい者（細かい規定あり）を雇う企業

障がい者を雇用する企業が、介助者を確保する費用の一部を国が補助する制度の総称。業務補助や食事・トイレ介助も受けられるが、通勤同行は対象外。給付期限がある。

雇用施策との連携による重度障害者等就労支援特別事業 | 公的制度

対象 週 10 時間以上働く（在宅含む）重度訪問介護等の利用者を雇用する企業等、もしくは自営業の重度障がい者。公務員は対象外

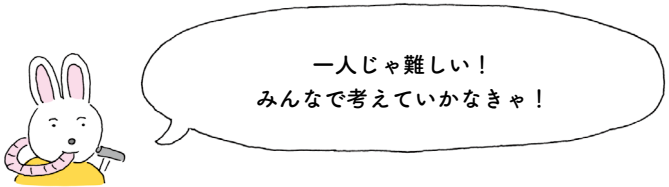
通称・就労支援特別事業。通勤・勤務中の介助費の大半を国と自治体が負担する。職場介助者助成金より補助率が高く、給付期限はない。ただ、自治体が導入しなければ使えない（詳細は P.75 へ）。

ここで紹介したのは、当事者にとって重要なもののうち一部です。
より詳しい情報一覧は当団体 note をご覧ください。
ご相談も随時受け付けています。

▼ note はこちら

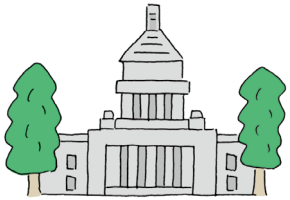
介助付き就労への4つの課題

介助を付けて仕事をしたい。
それがなかなか叶わない背景には
主に４つの壁があります。



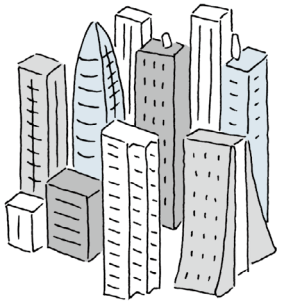
1 公的支援の不足

国や自治体はさまざまな助成を用意しています。ただ勤務中の介助費が一部企業負担、報告が煩雑など課題も。とくに重度訪問介護は就労時に使えないため、ADL に介助が必要な当事者は仕事を諦めたり、必要な介助を我慢して仕事を続けることで体調不良を引き起こしたりします。



2 雇用側の敬遠

多くの人が重度身体障がい当事者とかかわったことがないため、介助があれば固有の経験や能力を生かして働ける、またすでに働いている人がいることがあまり知られていません。公的な助成金の手続きが煩雑なため採用を敬遠したり、雇用が継続できなくなるケースもあります。



3 ヘルパー不足

全国的に、とくに地方部ではヘルパーが不足しており、事業所に依頼しても見つからないことも。重度身体障がい者の自立生活や障がい者のヘルパーという仕事の存在が社会に知られていない、医療的ケアが必要な人はヘルパーに喀痰吸引等研修を受けてもらう必要があるが実施調整が難しい、などの理由があります。

4 ロールモデルが少ない

重度身体障がい者には、公的な助成制度を使ったり、自費で介助者を雇ったり、介助を付けず超短時間勤務にしたりと、さまざまな方法で仕事をしている人がいます。ただ、お手本となる人（ロールモデル）が身近にいないため、仕事は将来の選択肢ではないと諦めている人も。

自立生活と当事者支援をしてきた「わたし」だからできる仕事

上野美佐穂さんは 10 代のころ旧国立療養所で暮らし、社会との関わりがほぼなく、将来にまったく希望が持てなかったと言います。退院し、自立生活や当事者支援活動を経た今考える、自分が働くことの意味とは。

上野美佐穂さん（48）

イルカ保険サービス合同会社
SMA（脊髄性筋萎縮症）

▼全文はこちら

大学進学したいと先生に言ったら「どうやって？」

病院で暮らし「勉強したところで将来役に立たない」絶望感

上野さんは 10 代のころ、どんな進路を希望していましたか？

大学進学したいと面談で先生に言ったら、「どうやって？」と返されたんですよね。一人じゃ何もできないじゃん、みたいな。私も、当時の生活以外の選択肢を知らないから、納得してしまう。でも勉強は続けたかったんです。それで、大学に通うのが無理なら放送大学はどうかとなったんですが、当時病棟にテレビが 2 台しかなくて、私が勉強するとテレビを長時間拘束することになるから、他の患者さんと平等じゃない、と病院側から良い返事がなくて。私ももうその時点で将来に対して絶望感があって、勉強したところで将来何の役にも立たないし、とあっさり諦めてその話はなくなってしまいました。

「みんながいて成り立つ会社」に私も貢献する

その後退院、自立生活しながら、他の当事者の自立支援をしてこられました。現在はイルカ保険サービス合同会社で働かれていますが、今の仕事の業務内容や、始めたきっかけを教えてください。

週に 2 日、オンライン会議をみんなでつないで、一緒に仕事をしています。私は主に顧客情報管理、SNS 管理が担当です。ときどきお客様と電話で手続きもします。

仕事を始めたのは、保険代理店を経営する知人が、声をかけてくれたのがきっかけでした。今まで 2 人でやってきた会社を大きくするためにチームワークを良くしたいので、私の楽観的な性格とか、場を惹きつける能力とかを生かしてほしいと。

仕事を続けてみて、社長が私を呼んで

私は寝たきりなので「できない」ことが見えやすい

くれた意味がだんだん分かってきたように思います。仕事に必要な能力をすべて備えた人なんていないのに、全部一人でできるべきという社会からのプレッシャーで、調子を崩すといったことはよく聞きますよね。一人ひとりが大切にされて、それぞれの豊かさを生かしながら、足りないところはチームでお互いに補っていけば良いはずなのに。私は寝たきりなので「できない」ことが見えやすいから、社員一人ひとりが「自分がこのチームのためにできることは何か」という意識が自然と生まれているように思うんです。自分一人だけでは役に立たないけど、

生活のために働くけど、あまりにもそっちが優先されるとお金は入ってこない

みんながいることで支え合って成り立つ会社というのが良いなと感じています。

「働こうと思ってはだめ」その心は？

上野さんという人全体が評価されるというのは、「障がい」の有る無しに関係なく、働くうえでとても大事な部分なのではと思います。でも重度障がい者にはその機会がほぼないですよね。

そうですね。生活のために働くのだけれども、あまりにもそっちが優先されてしまうと、お金って入ってこないなと、最近すごく思いました。自分の本当にやりたい、心から楽しめることをやっていく中で、そういう私を見て、会社に必要な意識だな、だからいてほしいと言ってもらえたように。

たとえばそういう私の楽しく生きる姿をみて、自立生活のノウハウを教えてほしいという人がいたり、そしたら少しずつまたお金になっていくわけじゃないですか。言葉を換えると、これまで自立生活をしてきて、働こうと思ってはだめだな、とすごく感じます。施設や病院を出て自立生活のために生活保護を受けて、その中で自己実現していって、やがてそれがお金になっていったら生活保護を抜くのも一手なんじゃないかと思います。

上野さんのキャリアは「生き方の支援」という点でつながっていますね。

そうですね。どの経験も無駄ではないと感じます。たとえば今の仕事で、お客さんに保険の内容を説明するには「保険募集人」という資格が必要ですが、試験センターは、こんな重度の障がい者が受験するなんて想定していないわけです。半年間試験センターと交渉し続けて、合理的配慮のある受験方法ができ、先日資格を取得しました。今後、障がいのある人たちにとって保険代理店も仕事の選択肢に入るなら、これまでの行政交渉などの活動が生きて、当事者としての役割が果たせたと思います。

RESUME
～私の履歴書～

プロフィール

上野美佐穂（うえのみさお）

介助側の都合で生活のすべてが決まっていた旧国立療養所から退院、ボランティアの介助者たちと自立生活した経験をもとに、ほかの当事者の自立生活を支援。重度身体障がい者の介助保障改善を求めて、行政との交渉も多く経験してきた。

得意なこと

交渉ごと、対人支援

学び

1976 ～ 1981
リハビリセンターに母子入院、その後母が亡くなり単身入院

1981 ～ 1990
小学校、中学校は筑波大附属桐が丘特別支援学校（東京都）

1990 ～ 1993
東埼玉病院（旧国立療養所）併設の埼玉県立蓮田特別支援学校

キャリア

1998 ～
浦和市（現さいたま市）で自立生活

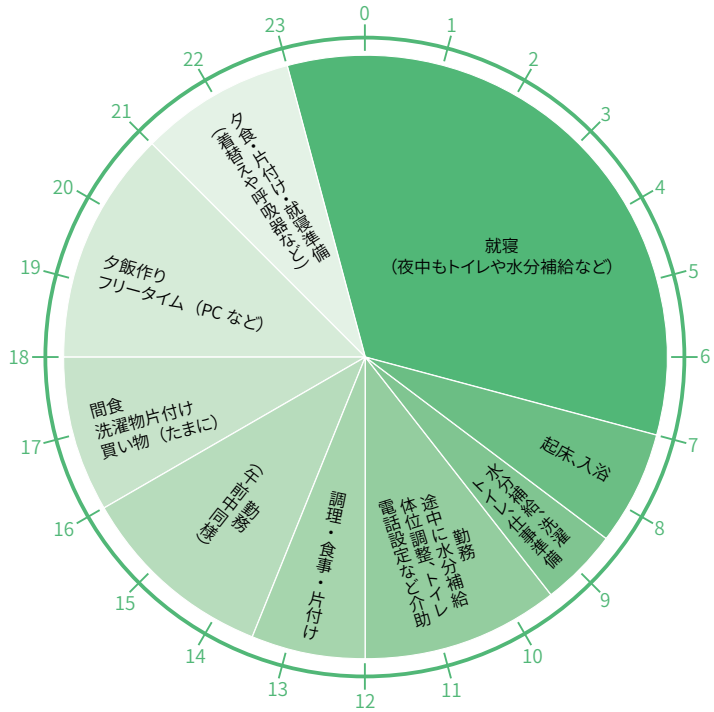
2001 ～ 2017
自立生活センター（CIL）とヘルパー派遣事業所を仲間とともに運営

2018 ～
個人として講演や自立生活支援

2020 ～
イルカ保険サービス合同会社で 1 日 5 時間、週 2 回のテレワーク

2021
保険募集人の資格取得

仕事がある日の 1 日の流れ



生活時間は重度訪問介護（850 時間支給）を利用し、事業所派遣の介助者 7、8 人が介助のローテーションを組んでいる。勤務時間中はさいたま市の就労支援制度を利用しているため、ヘルパーを付けられる。勤務中は横になり、手元のパソコンやスマホ操作は自分で行う。体調に応じて呼吸補助装置を使っている。

仕事と介助、切り離せない
この二つをマネジメントする

登り口倫子さんは、公的な介助制度を使って一人暮らしを成り立たせたうえで、人の役に立つ仕事をしたいと挑戦を続けてきました。勤務時間中の介助、また自分の生活のための介助と仕事の両立は、今もなお課題だと言います。

登り口倫子さん（36）

日本語教師
脳性麻痺

▼全文はこちら

やっとの思いで面接に漕ぎつけても「介助が必要だから」と断られ続けました

「介助が必要だから」不採用——約3年かかった就職活動

大学卒業後、どのように過ごしていましたか？

障がい当事者団体で活動していました。ただ私は、いろんな世界を見たいという性格なんです。当時は「一般社会で働きたい」という思いが強く、就職活動を始めました。社会福祉士の資格は持っていましたが、相談を受けるにはもう少しいろいろな世界を見て、自分の幅を広げないといけないという気持ちもありました。

私は脳性麻痺のため、電動車いすを用いて活動しており、パソコン操作や食事といった手元の動作以外のすべてに介助が必要です。ハローワークで求人票を何百と見て、書類を何十か所にも送り、やっとの思いで面接に漕ぎつけても「介助が必要だから」と断られ続けました。3年ほど経って諦めかけたんですが、「私の働きを見てから決めてほしい」という思いが強くありました。それである日、直接会社に「雇わなくても良いから、実習させて」と頼んでみたのです。そこが、就職した清掃会社でした。

使いにくかった職場介助者助成金

業務内容や、勤務中の介助をどのようにしていたか教えてください。

業務はパソコンの打ち込み作業でした。私の介助にもともと入っていたヘルパーさんに、そこの会社員として就職してもらい、職場介助者として働いてもらいました。

「重度訪問介護を就労中も使えたらどんなに良いか」という切実な意見は多いですよね。

まさしくその通りです。職場介助者へ

事業主が行政に毎月報告して、やっと介助に関わる金額の何分の一かの助成金が得られる制度なんです

ヘルパーのシフトに穴が空いたときの調整や研修などもしながら働くのは、体力的に厳しくて

の助成金が事業主に払われる仕組みを私も使っていましたが、少し利用しづらくて。「どの介助に何分かかった」と事業主が行政に毎月報告して、やっと介助に関わる金額の何分の一かの助成金が得られる制度なんです。どうしても事業主が「そこまでするのは難しい」となってしまいます。

たとえば、介助と介助の合間に介助者がほかの仕事を頼まれて、結局必要なときにトイレに行けないといった事態も起こりえます。私個人に介助者を雇える制度ができればいいなと思います。

その後、資格を生かして相談員として働き始めたのですね。

清掃会社は約１年で退職しました。というのも、事務仕事と言えば来客や電話の対応、物品整理などがメインですが、それがなかなかできず、回してもらえる仕事がとても少なかったんです。

退職後は、一人暮らしを始めるときに利用した相談室の方に誘っていただき、そこを運営する社会福祉法人に就職しました。障がいのある方やご家族の相談に乗る仕事です。

トイレ介助などはペアの相談員にやってもらいました。相談員が現場に外出すると「私一人だけで電話当番」ということもあったので、そういうときは他部署から応援に来ていただいて、なんとか対応していました。

自分が楽になれる方法を選び取る

相談員のお仕事を離れたきっかけをうかがえますか？

当時は働きながら、自分の生活面のヘルパーさんのマネジメントもしていました。シフトに穴が空いたときの調整や研修などもしながら働くのは、体力的に厳しくて。頭痛がひどくなり救急車で運ばれたこともありますし、背中や腰の痛みがひどく、座っていられなくなったこともありました。北海道の冬はなかなか外出できず生活が大変だったこともあり、もっと自分が楽になれる生活をしようと思い、兵庫県に引っ越しました。

これからどのような活動や生活をしたいですか？

これから、パートナーを探したいと思います（笑）。今までどうしても、自分自身のことを考える余裕がなかったので。介助者とではなくて、私個人が素直に向き合えるような相手がいると自分の人生にとっても、すごく良いだろうなと感じています。

やりたい活動はいろいろありますが、やっぱりお金を稼ぎたいです。2021 年末に日本語教師の資格を取得したので、これからはオンラインなどで日本語を教えたいです。

RESUME
～私の履歴書～

プロフィール

登り口倫子（のぼりぐちみちこ）

大学在学中に一人暮らしを開始。相談員の仕事の経験から、当事者の生活を制度の枠内に押し込める日本の制度に矛盾を感じ模索中。ブログやエッセイ発信、ラジオパーソナリティの一面も。

得意なこと

人の話を聞くこと

学び

1991~1997
普通校の小学校に通う

1997~2003
中学、高校は病院や寄宿舎から養護学校に通う

2004~2010
大学の臨床心理学科、社会福祉学科で学ぶ

キャリア

2006~2020
札幌市で一人暮らし

2008
障がい当事者団体で活動

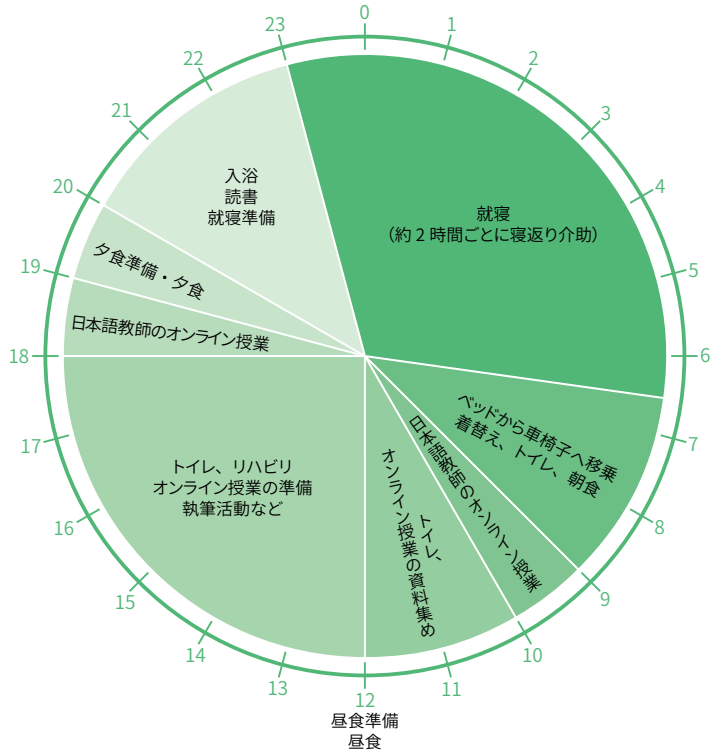
2011~2012
清掃会社で事務員として働く

2015~2018
社会福祉法人あむで相談員、事務員として働く

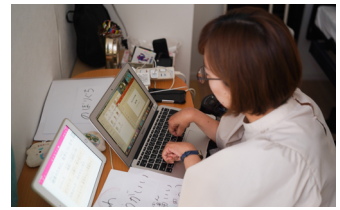
2020~
兵庫県で一人暮らし

2021~
日本語教師の資格を取得し、オンライン授業

仕事がある日の１日の流れ



パソコン操作や食事といった手元の動作以外のすべてに介助が必要で、重度訪問介護（502時間支給）を利用する。ただ夜勤帯の時間数が不足しており、自治体と交渉を続けている。また重度訪問介護は仕事中には使えないため、オンライン授業の間はヘルパー不在になる。



「一人で全部できないとダメ」から抜け出して、文章でだれかの役に立つ

川端舞さんは自立生活センターの活動などを通じて、子ども時代からの「一人で全部できないとダメ」という考えを乗り越えてきました。仕事を得て学歴主義からも抜け出しましたが、仕事中の介助費用は自腹で払うという課題があると言います。

川端舞さん（30）

フリーライター
脳性麻痺

▼全文はこちら

障がいがあることを学歴で補わなくても、他の人と同じように生活していい

「私の価値は学歴だけ」からの脱却

つくば自立生活センター（CIL）ほにゃらとの出会いが、転機になったとうかがっています。それまでは障がいのある自分について、どう捉えていましたか。

私の家庭は、とくに昔は本当に学歴主義で「障がいがあるから、勉強だけはだれよりもできて、大学を卒業しないと社会で生きていけない」と言われ続け、その通りに考えていました。

CIL には大学院生のころに出会って、徐々に「障がいがあるからこそできることがある」「障がいがあることを学歴で補わなくても、他の人と同じように生活していい」とわかったのです。ただ、自分の価値は学歴だけだと思い込んでいたので、大学院退学はとても悩みました。それでも当事者スタッフや介助者は根気よく私の話を聞き、待ち、決断を応援してくれました。

自分の視点で書いたものが、だれかの役に立つうれしさ

川端さんは現在、ネットメディア「NEWS つくば」で連載コラムや障がい政策に関する記事などを執筆されています。初めてお給料をもらったときは、どんな思いでしたか。

初めてお給料をもらったのは 2020 年、NEWS つくばで、やまゆり園事件についての記事を書いたときです。基本的にイベントの記事は、翌日には原稿をあげることが求められるのですが、初めてでよくわからず、原稿を書くのが遅くなってしまいました。そのため、ただのイベント報告ではなく、より深く書くようにとデスクから言われ、障がい者の視点で書きました。

掲載されると予想以上に多くの人に読んでいただき、自分でも社会に小さな影響を与えられるかもしれない、と自信がつきました。「だれよりも優秀でな

自分の好きな文章表現でだれかの役に立てる、それがお給料につながるのが本当に嬉しかったです

1 時間取材をすると介護料 1,200 円が飛んでいきます

いと、障がい者の自分は価値がない」とずっと思っていた私にとって、だれかと争わなくても、自分の好きな文章で表現することでだれかの役に立てること、それがお給料につながるのが本当に嬉しかったです。

働くために、お金を払うのはどう考えてもおかしい

働いてみて、どんな社会の課題があると感じますか。

いちばんおかしいと思うのは、仕事に重度訪問介護は使えないため、1 時間取材をすると介護料 1,200 円が飛んでいくことです。記事 1 本書くと、7,000 円（2022 年 4 月時点）もらえるので、そのうち約 5 分の 1 です。働いているのにお金を払わないといけないのは、どう考えてもおかしいなと思います。

どんなに障がいが重くても、働く権利は保障されなくてはならないですよね。

まだ日本では「自分で全部できないと、働いたらいけない」という考え方が強いと思っています。振り返れば私自身、小中学校は介助員を付けて普通学校に通っていたのですが、先生から「介助員がいるから、友だちに手伝ってもらってはだめ」と言われ、人に手伝ってもらうという考え自体がありませんでした。中学校では介助員から虐待を受けていて、嫌なことをされるくらいなら、全部一人でやった方がいいと思っていました。

CIL に関わり始めて驚いたのは、介助者に指示を出してやってもらったことは、私がやったことになることです。たとえば、みんなのために私が介助者に指示を出してご飯を作ったら、介助者ではなく私に「ありがとう」と言ってもらえることが新鮮でした。この考え方がもっと広まれば、仕事中に介助を受けることも当たり前に認められるのかなと思います。

川端さんのこれからの展望をお聞かせください。

じっくり教育について取材していきたいです。やはり私はインクルーシブ教育に興味があります。中学時代の虐待は、障がいのある私が悪いと思っていたのですが、今振り返ると、障がい児が通っているのにいないかのように振る舞う普通学校や、障がい児のことは介助員に任せきりで、誰にも相談できない体制にも問題があったのではないかとも思います。障がい児と介助員を孤立させる構造をこそ変え、障がいのない子どもと同じように、障がい児が学校にいる間は学校全体で責任を負う体制を作る必要があると思います。

RESUME
～私の履歴書～

プロフィール

かわばたまい
川端舞

1992 年、障がい者福祉関係者の両親のもとに生まれる。大学院まで進んだが、全国障害学生支援センター・殿岡翼さんや自立生活センターとの出会いをきっかけに退学、障がい者が生きやすい社会を作りたいと活動を続ける。

得意なこと

文章を書くこと

学び

1998~2010
小中高と地元・群馬の普通校に通う

2010~2014
筑波大学

2014~2018
筑波大学大学院

キャリア

2010~
茨城県つくば市で一人暮らし

2018~
つくば自立生活センター（CIL）ほにゃらで権利擁護活動

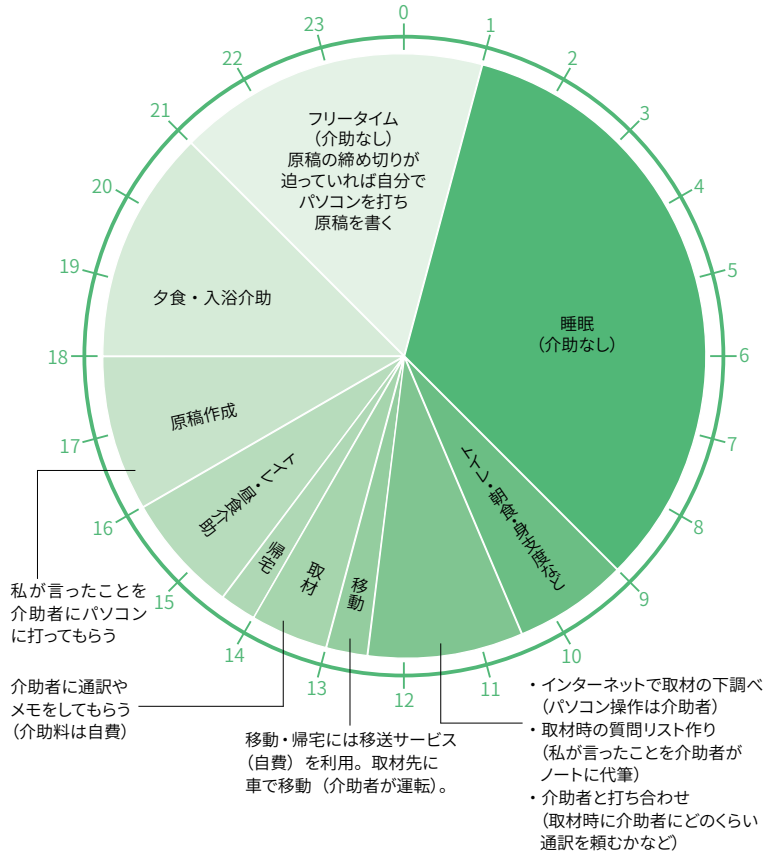
2019~
障害平等研修（※）のファシリテーター

2020~
フリーライターとして NEWS つくばなどに出稿

※障害平等研修

障がい当事者がファシリテーター（対話の進行役）となって進める、企業や自治体、団体、個人対象の障がい学習。障がいの社会モデルの考え方がもとになっている。

仕事がある日の 1 日の流れ



脳性麻痺のため、自力で座って動けるが、ご飯、お風呂、トイレなどの日常生活と外出時には介助者が必要。生活の介助やパソコン操作には重度訪問介護を利用する。支給時間数が 24 時間分をカバーしていないため、夜間は介助者不在となる。

地元に貢献しながら、公務員にも多様性が当たり前になる社会へ

就労中に介助者を付けられる就労支援特別事業が 2020 年に新しくできましたが、公務員は対象外です。地方公務員の A さんは、障がいのある人が公務員として当たり前に働ければ、それが社会に派生していくはず、と話します。

A さん

地方公務員
骨形成不全症

その都度片付けるのが難しいので、整理整頓ができない人と思われてしまっています

役所職員の親身な対応を受けて、公務員を目指す

お仕事の内容、現在の職場に至った経緯などを教えてください。

基本的に接客、電話対応、事務です。福祉に関する窓口で申請の受付も行っています。公務員を希望したのは、自分が子どものころ、母と学校での介助員制度の利用について相談したとき、最初に対応してくださった役所の職員の方が親身になって対応してくださったことが大きいと思います。企業のように利益を求めるのではなく、自分もその方に合った支援をしたいと思いました。それから、大学生のころから、地元に恩返ししたいと思っていました。

採用の際に、合理的配慮についてどのように話し合いましたか。

担当の方が何でも聞いてくださったので、多目的トイレの必要とか机を低くしてほしいとか、残業はあまりできないという話をしました。10 年前の当時は、「介助員は付けられない」となっていましたが、地元の人々の役に立ちたいという気持ちが強かったので、介助者なしでどうにか頑張ろうと思いました。

介助者がいないから生じる、働きにくさ

10 年も続けるのは大変なことですね。2020 年 10 月に「雇用施策との連携による重度障害者等就労支援特別事業」が開始されましたが、公務員は対象外となっていて、現在も就労時の介助が受けられないことが課題です。そこで、実際に働く中で現在も感じている課題を教えていただきたいです。

分厚い書類のファイルを扱うことが多く、私の場合、出し入れがけっこうな肉体労働です。片付けを周りの方にお願いすることはありますが、資料を処

最初は車いすから体を浮かせて頑張っていましたが、大腿骨を疲労骨折してしまいました

「役所で働いている人だ」と声をかけられ、社会の一員として働いていることを実感します

理するたびにお願いするのはタイミングをうかがうのに苦労します。私には届かないロッカーもそうですが、その都度片付けることが難しいので、整理整頓ができない人と思われてしまっています。

それと、プリンターの高さが、私にとっては高かったので、最初は車いすから体を浮かせて頑張っていましたが、1年続けていたら、骨形成不全症なので大腿骨を疲労骨折してしまいました。最初は「共用」だから低くできないと言われましたが、怪我をしてから、低いものも用意していただけるようになりました。他にも、段差をなだらかにしてもらうなど、働いてから変わっていきました。

通勤時に困っていることはありますか。

通勤時はいろいろあります。雨天時、一人だと濡れたカッパを脱いで干すことができないので、傘をさしていますが、そうすると電動車いすのバッテリーやリュックが濡れてしまいます。また、電車内が混んでいると、乗客が背負っているリュックなどが、ちょうど顔や体の高さにあるのでぶつかると体が折れてしまいます。だれかが手でガードしてくだされば大丈夫なんです。

それから、乗客や駅員の方に、通勤ラッシュや混雑時に来ないでほしいといった態度をされたことがあり、通勤で憂うつな思いをしたくないと思い、スロープを頼まずに自分で乗車できる路線の近くに引っ越しました。通勤は大変ですが、ときどき私の姿を見た乗客の方が「役所で働いている人だ」と気づいて声をかけてくださるようになると、社会の一員として働いていることを実感します。

見えにくい障がいは周囲に理解されにくい

他に、介助者がいないことで課題と感じていることは何ですか。

窓口で対応した相手の方のご自宅に訪問することが、バリアフリーではないので難しく、代わりの方にお願いすると、自分がやっている業務を一通り把握することができないんです。一度、上司が1回でも行こうかと提案してくれましたが、乗用車に車いすが入らないなど移動の問題もありました。最後まで責任が取れないのが残念ですが、他の同僚の話を聞いて想像を膨らませています。

また私にとって、骨にヒビが入るのは子どものころから日常です。なので体のどこかが骨折していても、仕事ができる体かどうかは自分でわかります。痛みのピークが過ぎれば、仕事で使う上半身を動かせるし、トイレ介助さえ頼めれば問題なく仕事できるんです。でも周りからはそういう事情は理解されにくく、「完治するまで休んで」ということになると、1か月半以上も仕事ができないこともあります。骨折してその都度長期休みになると、仕事自体を続けられるか不安です。

お休みはどのように過ごしていますか。

昼まで寝ていることが多く、土曜日は平日にはできない通院や、訪問リハビリテーションの予定を入れるようにしています。友人と会ったり、好きなこともします。ただ、仕事で疲れているので、メンテナンスをしないと次の週の仕事ができなくなりますね。

公務員として当たり前に働ければ、社会に派生していく

仕事の楽しいところや、やりがいは何ですか。

窓口対応で、相手の方の状況や理解のしやすさを瞬時に把握して説明した後、「わかりやすかったです」とお礼を言ってもらえたときが嬉しいです。あと役所は、複雑な手続きであっても、表にはその複

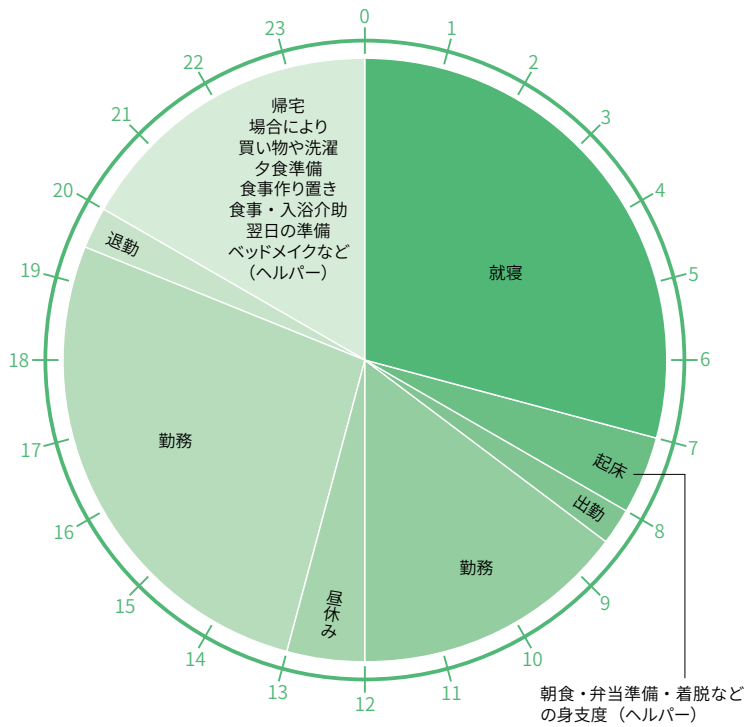
大きな業務を部内のチームで協力し合ってできたときは嬉しかったですね

雑さを出さずに、みなさんに当たり前のように問題なく手続きや生活ができるようにする「縁の下の力持ち」だと思います。とくに、大きな業務を部内のチームで協力し合ってできたときは嬉しかったですね。

今後、「介助付き就労」が認められたら、現在の公務員という立場を生かしてチャレンジしたいことはありますか。

ありますね。公務員で当たり前に働けるということが、結局、そのまま社会に派生していくと思っています。職場では、みんなが忙しさのあまり「共生社会（障がい者などいろいろな人が共に暮らす）」は簡単なことではありませんが、できることでお互いに協力し合うという考えの人も多いです。最近は、障害者活躍推進計画（障害者が活躍して仕事ができる方法や計画）の作成に参加し、同じ職場で働いている障がい者同士が相談し合えたり、採用以降も必要に応じて意見を伝えられる機会を作ったりできるように取り組んでいます。

仕事がある日の 1 日の流れ



RESUME
～私の履歴書～

学び

臨床心理学科卒業

キャリア

役所勤務（勤続 10 年）
重度訪問介護を利用し一人暮らし

得意なこと

さまざまな相手に合わせた
コミュニケーションの力

ふだんは簡易電動車いすを使っている。日常生活では重度訪問介護を利用し、平日は朝 1 時間、夜 3 時間介助を受ける。就寝時はヘルパー不在。介助の支給時間は足りておらず、とくに仕事の繁忙期には帰宅が遅くなることもあり苦戦している。
勤務中はヘルパー不在だが、雨天や車内の混雑時の通勤同行、分厚いファイルの出し入れ、体調が悪いときのトイレ動作、外勤・出張などに公的な介助があった方がスムーズに働ける。介助なしで週 5 日フルタイム勤務のため体力的にはきつく、週末は身体のメンテナンス中心で過ごす。

介助があれば
もっと働けるのに

國光良さんは学生時代の活動のつながりから、障がいのある児童・生徒向けの教材作成の仕事を見つけました。人工呼吸器を常時使う國光さんにとって、勤務中に介助を付けられないことは、大きな不安だと言います。

國光良さん（32）

大学職員
デュシェンヌ型筋ジストロフィー

▼全文はこちら

介助者を親と勘違いされていたようで……。怪訝な雰囲気で対応されたことがありました

学生のころのつながりで アルバイト開始

國光さんは大学卒業後、どんな計画を立てていましたか？

一般企業の障がい者雇用で働くという目標がありました。就職活動をして、何社かエントリーシートを書いたり、会社説明会に行ったりしたんです。でも、書類の段階で落とされて、面接まで進めませんでした。

ある企業の説明会に、介助者が同行すると事前連絡を忘れたことがありました。介助者がそばについていないとトイレなどで困ると当日詳しく説明したのですが、介助者を親と勘違いされていたようで……。とても怪訝な雰囲気で対応されたことがありました。説明会の時点でこのような対応なので、実際に介助者を付けて一般企業で働くとなるととても大変そうだと思うようになり、ネットで在宅ワークを探したりしたんですが、なかなかありませんでした。

そのころに、高校生で参加した DO-IT Japan（障がいのある若者のリーダー育成プロジェクト）のつながりで、DO-IT Japan を主催する大学研究室でのアルバイト募集案内が入ってきました。たまたま在宅でできるということだったので、アルバイトから始めました。

現在の仕事内容について教えてください。

読みの困難があり特別支援を必要とする児童・生徒向けに、教科書などの音声教材を提供するプロジェクトに関わっています。仕事は事務作業メインで、特定のメール確認や対応、データの入力・整理・分析、ホームページ更新作業などです。大学で学んだデータサイエンスや統計学をデータ分析の仕事に生かせるのは良いことだと感じて

就労中に介助が使えないのは怖く感じています

僕のことを話す時間もあって、置かれた状況も理解した上で長期的に介助に入ってほしい

います。

姿勢調整、水分補給を我慢しながらの超短時間勤務

アルバイトから職員に変えたきっかけを教えてください。

4年ほど、短時間の納品ベースでのアルバイトで働きました。納期を守るとか、ビジネスメールの書き方とかコミュニケーションのとり方を学びました。そして2019年に、研究室の先生から大学職員として働いてはどうかと提案がありました。在宅ワークにも慣れ始め、もうちょっと長く働いてみようと思い、完全在宅の短時間雇用職員になりました。

今は1週間のうち、どれくらい働いていますか？

1日1.5時間程度の超短時間で週4日です。就労中は重度訪問介護を利用できないので、1回の勤務時間が2時間など長くなると介助者なしでは難しいですが、超短時間ならまだ大丈夫だからです。でも、就労中に介助が使えないのは怖く感じています。

在宅ワーク中は、ヘルパーがまったく付かないということですか？

休憩を挟まない30分や1時間といった比較的長い時間のミーティング時は、完全にヘルパーがいません。定期的な姿勢調整と水分補給は我慢になりますね。ただ、万が一何かあったときに、電話で呼んですぐに駆け付けられるよう、その時間はヘルパーの休憩という形にして、家の近くのコンビニや車で待機しています。ボランティアのような形ですね。介助があればもっと働けるのですが……。

就労中の介助制度の問題は、本当に早く改善してほしいですよね。現在、重度訪問介護を24時間利用されていますが、介助者とはどんな関係が良いと考えていますか？

仕事なので、介助は最低限のレベルはやってもらわないといけない、というのはあります。ただ、100%お仕事的な感じだと流れ作業みたいになり、コミュニケーション不足がどうしても出てくると思います。せっかく介助に入っているので、障がい当事者の置かれている状況も知ってほしいし、一緒に考えていけるような関係であってほしいと思います。

デュシェンヌ型は、筋ジストロフィーの中でも最重度とされるタイプです。病状の進行に伴い、少し前までは自分でできていたことができなくなることに、いつも大きな喪失感が伴います。この喪失感を少しでもなくし、日々の生活の質を高めるためにも、周囲のサポートや介助者の支援も不可欠となります。僕のことを話す時間もあって、置かれている状況とかも理解した上で、長期的に介助に入ってほしいというのはありますね。

RESUME
～私の履歴書～

プロフィール

くにみつりょう
國光 良

同じ障がいのロールモデルとの出会いや、DO-IT Japan での経験から自立生活を志す。大学進学を機に一人暮らしを開始。重度訪問介護の支給時間や事業所不足のなか、4、5 年かけて介助体制を構築した。最初は抵抗のあった呼吸器も今は「眼鏡のように日常生活の一部」。

得意なこと

- HP 更新
- 文書、マニュアル作成
- 経理
- データ整理・分析
- 情報収集

学び

1996~2002
小学校は地元・広島の公立普通校に通う

2002~2008
中高は私立の一貫校（普通校）に通う

2009~2013
同志社大学

キャリア

2007
1 期生として DO-IT Japan に参加

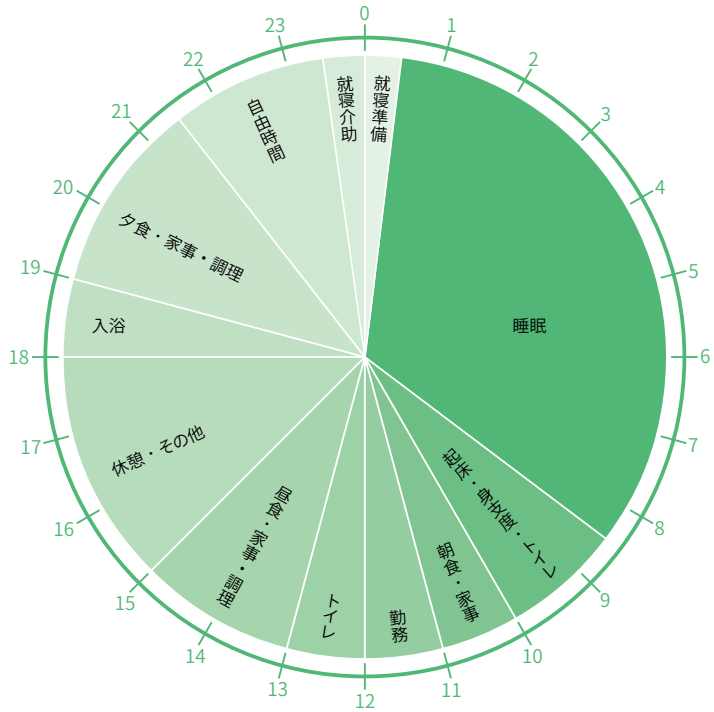
2009~2018
京都府南部で一人暮らし

2014~2019
大学研究室でのアルバイト（在宅勤務）

2018~
重度訪問介護利用の介助体制を整えるため、奈良に引っ越し一人暮らし

2019
大学の短時間雇用職員（在宅勤務）

仕事がある日の 1 日の流れ



勤務時間以外は、すべて重度訪問介護のヘルパーによる介助が入る。日常生活の呼吸では、NPPV を使用。勤務中はシーティングバギーを使い、胸郭や背中を保持する 3D ネットやネックサポートなどによる支えで座位保持をしている。外出時は介助者や友人などが車いすを押す。

障がいのない人の「当然」は、障がい者の「特別」？

一般企業で事務の仕事をしている日髙美咲さん。通勤し顔を合わせて仕事をすることの大事さを日々感じる中で、障がいのない人にとって当たり前のことが、障がいのある人にはなかなか当たり前にならない現状、そして障がい者の在宅ワーク推進に偏りがちな風潮に疑問を抱いていると言います。

日髙美咲さん（23）

株式会社エバーライフ
SMA（脊髄性筋萎縮症）2 型

▼全文はこちら

私の中では就職することが自然でした

「自分に何ができて、何ができないのか」を伝える

就活に至るまでの経緯を教えてください。

短大を卒業したときに、私の中では就職することが自然でした。就職活動として学内企業説明会と、障がい者雇用促進面談会に参加をしました。今、勤めているエバーライフは、学内企業説明会で出会いました。

どんな苦労やハードルがありましたか？

自分ひとりで通勤できるところと、自分のやりたい仕事、プラス、エレベーターやお手洗いなどの設備が整っている条件で探していくと、当てはまるところ自体がありませんでした。障がい者雇用促進面談会も、障がいのある人向けを謳っているので、選択肢がいっぱいあるんだろうと集まっている企業のリストを見ていたんですけど、「車いす不可」とありました。「エレベーターがない」「お手洗いが整ってない」みたいな理由でした。「障がい者雇用を」って言っているのに、そこが整ってなくて「不可」と書かれていることに驚きやショックを覚えました。

エバーライフで働けた決め手は、なんだったんですか？

採用担当の方がちゃんと私の話を聞いてくれて、私の病気のことについて詳しくお話しできました。見た目じゃ何ができるかはわからないと思うので、こと細かに、「動くところはここで。こういう操作の仕方でパソコンをして。どれくらい打つのに時間がかかって。ただこういうふうにしたらできます」みたいに、できないこともはっきり言いました。その時点で、「お手洗いとかも無理だし、サポートや介助が必要です」と伝えました。後から聞いたら、「ちゃんとできること・できないことを、教えてくれていたのはすごく良かった」

見た目じゃ何ができるかは わからないと思うので、 こと細かに伝えました

在宅ワークとは違って、 実際にその会社に行って働く人間関係って すごく大切だと思っています

と言われた記憶がありますね。

トイレに当たり前に 行けないこと自体がおかしい

今はお昼休みの１時間、１日に１回の介助を入れて働かれているとのことですが、それ以外の時間に必要な介助はどのようにカバーされているんですか？

まず会社に着いてカバンを降ろしたりするのから、業務に就くときのトラックボールを膝に置くとか、日中の水分補給とかは周りの社員のみなさんがお声がけくださっています。

社員さんが「コーヒーどうですか」と勧めてくれても、トイレにはヘルパーがいる時間に１回しか行けないから、飲めないとお話しされていましたね。

私自身コーヒーもすごく好きだから飲みたいんですけど、やっぱりコーヒーって利尿作用がすごいから、途中でお手洗いに行きたくなることがありました。水分を取らないわけにはいかないしフレーバーティーも好きだったので、自宅から１日分飲む量を持っていって、「すみません。コーヒーじゃなくてこっちを注いでいただいてもいいですか」って言って飲むようにして、お手洗いはそこでクリアーというか。

もし、常時介助者が待機してくれたら、いつでもコーヒーを飲めるということですよね。

そうですね、たしかに。介助者が常にいるとなるとどうなんですかね。私はいいけど企業さんとかやっぱり嫌うのかな。

通勤と在宅、選べることが大事

実際に通勤して働いてみていかがですか？

在宅ワークとは違って、実際にその会社に行って働く人間関係ってすごく大切だと思っています。障がいのある人は在宅勤務ができればいいだろうみたいな、そういう社会の空気みたいなのは嫌だなと思います。就労時間中や、休み時間の会話がすごく楽しいです。働きがいとしては、新しい業務を任されて感謝されたときは「ああ、やって良かったな」と思います。

障がい者は在宅勤務、みたいな流れはあるけれど、そうではなくて選べることが大事ですね。実際に毎日通う場所があって、そこで出会う人がいる、という環境も、選択肢の一つであるべきですよね。

RESUME
～私の履歴書～

プロフィール

日髙美咲（ひだかみさき）

小中学生のころから学生スタッフ（有給）という珍しいかたちで家族以外からの介助を受けてきた。やりたいことをすべて自分の責任でやらせてくれた母と二人三脚で、就職に漕ぎつけた。今は一人暮らしが目標。

得意なこと

パソコン操作、コミュニケーション力

学び

2005~2014
小中は地元・福岡県粕屋町の普通校に通う

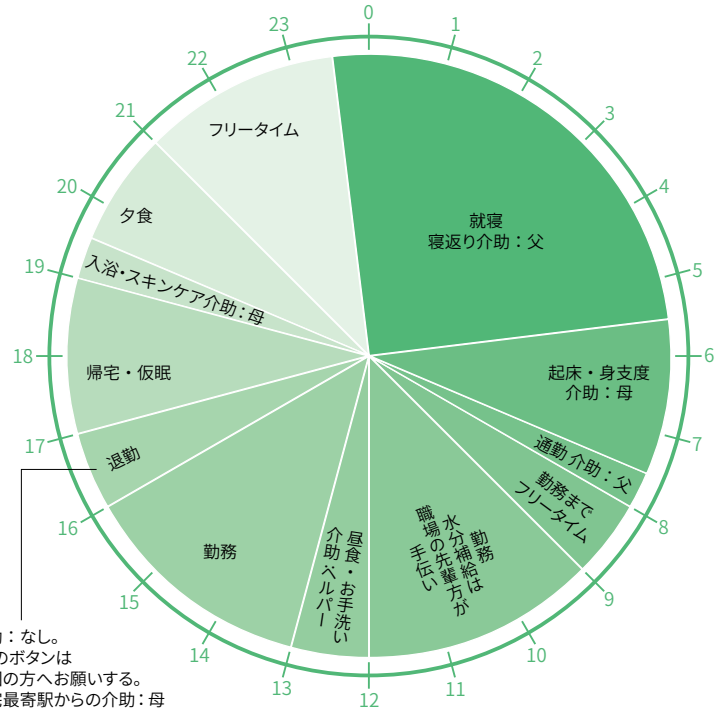
2014~2017
高校は特別支援学校に通う

2017~2019
短期大学のビジネス情報学科でビジネスマナーやパソコンの技術を学ぶ

キャリア

2019~
株式会社エバーライフ人事総務部
当初は契約社員、現在は短時間勤務正社員

仕事がある日の１日の流れ

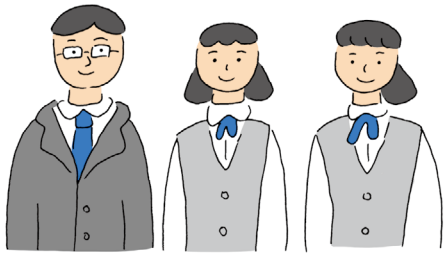


介助：なし。
EV のボタンは
周囲の方へお願いする。
自宅最寄駅からの介助：母

勤務中は昼休みの１時間のみ、ヘルパーが来社して食事やトイレ介助をする。ヘルパーは職場介助者の委嘱助成金を利用して、会社側が雇用。就活や入社にあたっては、地域の障害者就業・生活支援センターも利用した。最寄駅・会社間の通勤・退勤は電車に一人で乗車。自宅から最寄駅までの車移動は同居の両親が介助する。

介助が必要な仲間を迎えて わかったこと

日髙美咲さん（P.47 参照）が介助者を利用しながら働いているのは、株式会社エバーライフという地元・福岡の企業です。日髙さんを雇用して、会社側にはどのような変化があったのでしょうか。同社人事総務グループの徳永亮さん（マネージャー）、石川奈々さん（採用担当）、森本夏美さん（給与担当）にうかがいました。



話し合い、意見交換に尽きます

問題はその都度一緒に解決

御社にとって日髙さんは、初めての障がいのある従業員だとうかがっています。応募からインターンシップ、採用と進む中、社内の話し合いの中で不安などはありましたか。

石川さん：採用決定の判断をくだす時点で気づけていない問題があり、雇用後にトラブルになる可能性があるのではないかと不安でした。急な体調不良や、災害時の安全面、介助時の事故など、本当に責任を持てるのかということがありました。また、障がいの全容が見えないことで漠然とした不安を抱える既存社員が、心から歓迎して日髙さんを受け入れてくれるかどうかも不安でした。

その不安・課題をどのように解消していきましたか。

石川さん：本人と（私生活のメインの介助を担っていた）お母さんとの話し合い、意見交換に尽きます。問題や不都合は発生するであろうことを前提とした雇用であり、就業開始後に起こる不都合については、その都度お互いに気軽に意見交換し、解決策を一緒に考えて対応していくことで合意しました。かかりつけ医や緊急時の連絡先の把握、災害時の避難方法の確認などはしっかりと行いました。

既存社員の漠然とした不安に対しては、アンケート形式で不安や懸念を洗い出し、説明会を実施しました。一方的な回答にならないよう、直接意見交換できる個別面談の場も設けました。また、入社前に障がいや合理的配慮についての研修を実施し、受け入れ社員側の意識を少しずつ高めていきました。

採用の過程で御社と日髙さんが、お互いを知るためにどんな工夫をされていたのか、教えてください。

一方的に支援する姿勢では いけないと学びました

障がいの有無に関わらずとても基本的なことですが、双方向のコミュニケーションがお互いのために必要です

石川さん：採用試験前にインターンシップを行い、勤務時の感覚や問題を体感する時間を設けました。その中で、人生グラフを用いた自己紹介書を作り発表してもらうことで、社員が日高さんのことを深く知ることができました。また、日高さんが職場や社員の雰囲気を知る場として、部署ごとに集まり、一人ひとりの自己紹介や仕事説明をしてコミュニケーションをはかりました。

職場のコミュニケーションが活発に

日高さんが職場に入ることで、配属部署や会社全体に変化はありましたか？

森本さん：職場でのコミュニケーションを意識することが増えたと感じます。入社にあたっては、日高さんがどのような支援を必要としているのか知るところからはじまり、一方的に支援する姿勢ではいけないと学びました。日常的に仕事を進めていくなかで、日高さん自身がどこをどう手伝ってほしいか言葉で発することと、周囲の人間は、何が必要なのかまずは聞くこと、障がいの有無に関わらず、とても基本的なことですが、双方向のコミュニケーションがお互いのために必要です。職場内でも、分からないことや手助けが必要なときは声を掛け合う、また業務上の情報共有についても、積極的にコミュニケーションをとるよう、変化していると感じます。

短時間勤務の対象者が広がる

徳永さん：日高さんは入社時、トライアル雇用助成金を利用するため契約社員（勤務時間は正社員の４分の３の６時間）でした。その後状況を見ながらフルタイムへ移行し正社員雇用となる予定でしたが、（体力面で）フルタイム勤務が当面難しいことから、労働時間を短縮できる規程を整備し正社員に区分変更しました。

これまで当社の短時間勤務の対象者は、育児や介護をする従業員に限定していましたが、これらに該当しなくても、特別に事情がある場合には通常の時間より短い時間で働けるようになり、さまざまな事情を抱える社員に柔軟に対応できる体制に少しずつ変わってきています。

日高さんの勤務継続に対処したら、さまざまな事情のある方が働きやすくなったんですね。最後に、重度身体障がいのある人を雇用するにあたって、どんな情報やサポートが社外にあったら良いなと思いますか？

徳永さん：障がいをお持ちの方を採用する場合、会社はどのような手順を踏んでいけば良いか分からないことが多いと思います。“順番にやることリスト”のようなものがあれば、もっと積極的に雇用を検討できる企業が増えるのではないかと考えます。

一つずつ丁寧にコミュニケーションを重ねていった日高さんと御社ですが、そのガイドになるものがあると、安心につながるかもしれないですね。本日は、どうもありがとうございました。

対 談

障がいと健常、ふたつの立場から見るライターという職業

MAI KAWABATA
×
MEGUMI SHINODA

重度身体障がいのあるライター川端舞さんと、
健常のライター篠田恵さん。
同じ仕事をするうえでの共通点は？　違いは？
ライターという一つの職業を通して、
障がい者の「はたらく」今後について考えました。

記事はコミュニケーションの積み重ねで作られる

まず、お二人が文章を書くのを仕事にしたきっかけを教えてください。

篠田：私は大学院で論文を執筆中、ゼミの教員や仲間から、フィールドワークの調査内容や文章が良いと言われて、取材・執筆に自信を持てたことで、文字コンテンツ全般を仕事にするようになりました。

川端：私はもともと文章を書くことが好きでした。私には言語障がいもあり、文章に書く方が正確に伝わるので、書く頻度も多かったです。以前からつくば自立生活センターほにゃらの機関誌に文章を載せていたのをきっかけに、ライターになることをほにゃらの人が勧めてくれました。

篠田：周囲からきっかけをもらえたのは、お互い良かったですね。

どんな仕事をするかを決断するのって難しいですが、何かやってみて人に見てもらうことは、きっかけの一つですね。仕事のやりがいはどんなところですか？

川端：いろいろな人とコミュニケーションをとりながら、記事を作っていくことです。取材相手から「伝えたいことが違う」と指摘されることもありますが、そのときは、素直に謝ったり、デスクに相談しながら解決策を見つけます。ちゃんと自分が社会の中でいろんな人と関わりながら生きている実感を持てます。

篠田：コミュニケーションをとりながらみんなで物を作っていく感覚、すごく共感します。取材相手や掲載媒体と対話しながら、話のどこを削り、何をタイトルにするか考えていく過程は楽しいですよね。他のライターの記事を編集・校正する、また反対に自分の文章をだれかに添削してもらうことで、相手への信頼が増すことも多いです。

「障がい」がハードルになる場面

記事を書く上で、大事にしていることは何ですか？

篠田：情報や文章の正確さは譲れません。

川端：私も、事実を正確に文章にする難しさを日々感じます。一文を正確なものにするために、長時間資料を読み漁ったりします。

篠田：正確さのうえに、イベントなどのニュース記事は、1日遅れたら価値がなくなるので、書く速さは大事ですよね。

川端さんは NEWS つくばで、ニュース記事を翌日出稿していますね。上肢に緊張があるので体力的にも時間的にも、かなり無理をしているんじゃないかと感じたんですが、どうですか？

川端：締め切りが迫っているときは、介助者が帰ったあとも、夜遅くまで自分でパソコンを打っています。あまり長時間、自分でパソコンを打つと、体が痛くなりますが……。

篠田：もっと長時間、介助者にいてもらえたら楽なんだろうなと想像します。介助付き就労のためのサポートが不足しているので、川端さんが仕事上で困ることは、きっとその他にもたくさんありますよね。

川端：他のライターは取材日程を決めるとき、取材相手の都合を優先すると思いますが、私の場合、日中でも介助者がいない時間があって、その時間は取材に行けないので、日程を決めるのが大変な部分もあります。日中はずっと介助者にいてほしいと思うときもありますが、介助者不足のため難しいです。

職業としてこだわりポイントは同じでも、障がいがハードルになることも多いんですね。

川端：そうですね。勤務中に重度訪問介護は利用できないので、私は取材中の介助料は自己負担しているんですが、不正利用していると思われないか、心配になるときがあります。他の人と同じように仕事をしているだけなんですけどね……。

自分をライターとして見てもらえるかの不安もあります。障がい者が取材するイメージを持っていない人が多く、質問しているのは私なのに、介助者に答えてしまう人もいるんです。

当事者だからできること、障がいと直接関係なくてもやりたいこと

篠田：NEWS つくばは、地方紙の廃刊による民主主義の後退を問題意識として始まったそうですね。重度身体障がい者だから抱える仕事上の課題がある一方で、川端さんが当事者の視点から地元のニュースを届けることは、読者が地域に住む障がい者の「顔が見える」点で、とても意義があるのではと思います。

川端：私はもともと、多くの人に障がい者の抱える問題を知ってもらうことを目的にしています。だから、障害平等研修のファシリテーターや障がい児支援の仕事、活動も同じように大事にしているんです。ライターとしては、地域で暮らす障がい者の姿を身近に感じてもらえる記事を書いて、少しでもつくばが障がい者の暮らしやすい地域になったら嬉しいです。

以前、ほにゃらで自立生活に向けて支援していた当事者がいたので、その方が自立したら記事にしようと思っていました。でもコロナ禍で準備が足踏みし、実現前に亡くなってしまったので、その過程を記事にしたんです。自立生活が実現、というニュースではなかったけど、その人の存在を地域に届けられたのは良かったと思います。

一方で、書く分野が比較的広い篠田さんは、どんな仕事の目的意識がありますか？

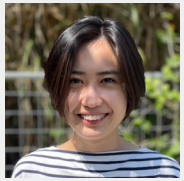
篠田：文章を書く中でつく技能は、たとえば曖昧なアイディアをシャープにしたり、取材・調査で情報を集めて組み立てたり、たくさんある大事な要素の優先度をつけて限られた字数で伝えたり、といったものだと思うんです。私はそういう技能を生かして、いろいろな分野で意義のある活動をしている人たちを後押ししたいな、と考えています。

川端さんのように当事者の視点から書くライターとは違う方向性ですが、障がいの有る無しにかかわらず、そういう仕事の考え方もありかなと思います。

川端：なるほど。私は子どものころ、働く障がい者のイメージがまったくなくて、夢は持つものの自分が何か職業に就く姿は想像できませんでした。介助を受けながら働くロールモデルがさまざまな場所にいることで、障がい児にとって将来の選択肢が広がる気がします。

そうですね。重度身体障がい当事者だからできることはたくさんありますが、一方で「障がい」に直接かかわらなくても、当事者の視点が入った方が良い分野ってたくさんありますよね。介助付き就労が当たり前になって、当事者の視点をもつ人がさまざまな分野に入ることで、だれもが働きやすい社会に近づくのと同時に、さまざま分野で新しい価値観が生まれて、世の中がアップデートされていくのではと思いました。今日は、ありがとうございました！

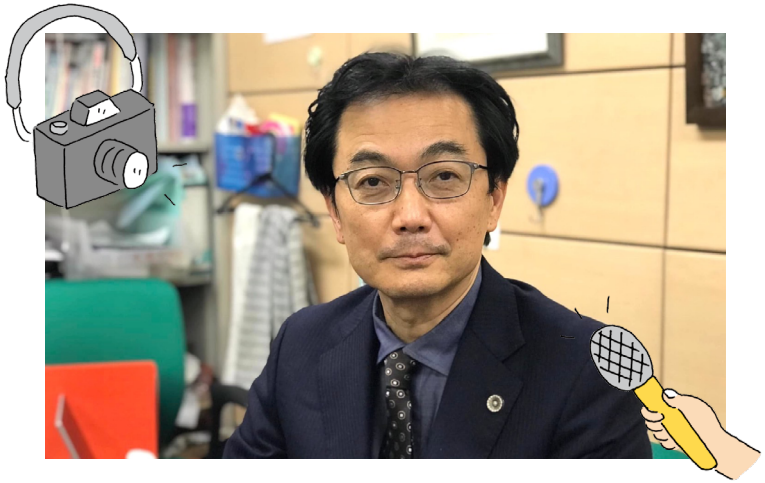
川端舞
大学院で障がい児教育を研究していたが、当事者支援を仕事、活動にすべく退学。つくば市で一人暮らしをするフリーのライター。



篠田恵
学生時代、自立生活する重度身体障がい当事者の介助者をしていた。業界紙の記者などを経て、フリーのライター、編集者。

教えて！藤岡弁護士！

なぜ重度訪問介護は就労時に使えないの？



日常的に介助が必要な障がい者の多くは、
重度訪問介護を通勤・勤務中にも使えるよう
求めてきましたが、実現していません。
どうしてそんな仕組みになっているの？
そんな疑問を抱いたリス記者が、藤岡毅弁護士にインタビューしました！

藤岡毅
1962年生まれ。「介護保障を考える弁護士と障害者の会全国ネット（介護保障ネット）」の共同代表、障害者自立支援法違憲訴訟全国弁護団事務局長、東京弁護士会高齢者・障害者の権利に関する特別委員会福祉制度部会長を務める。

リス記者

憲法27条には『すべて国民は、勤労の権利を有し、義務を負ふ』とあるのに、
仕事時に重度訪問介護（以下、重訪）を使えないのは、憲法違反のように思うのですが……？

藤岡弁護士

まず、障がい者に関する法律を確認してみましょう。
1つ目が、障害者基本法[1]。
3条に「全て障害者は、経済分野の活動に参加する機会が確保されること」とあります。

藤岡弁護士

2つ目が、障害者総合支援法[2]。障がい者福祉サービスは「障害者基本法の基本的な理念にのっとり」行う、と書いてあります。つまり、重訪の仕事利用を積極的に認めていると解釈できるんです。

リス記者

でも実際は、仕事中に重訪は使えません。
厚労省や自治体は適切に運用してると言えるんでしょうか……？

藤岡弁護士

誤った法解釈と言えるでしょうね。労働基本権を守っていないし、障害者雇用促進法や障害者差別解消法にも違反すると思います。

[1] 障がい者の自立、社会参加の基本理念を定める法律。
[2] 重度訪問介護などさまざまな福祉サービスについて定める法律。

藤岡弁護士

憲法のもとつくられた法律への違反なので、
重訪が仕事に使えない運用は、
憲法の趣旨に反している、と言えるでしょう。

リス記者

なるほど……！　そういう国の姿勢に対して、
障害者自立支援法違憲訴訟団は毎年のように
重訪を仕事に使えるよう求めているんですよね。
返事はどうですか？

藤岡弁護士

政府は、2006 年の厚労省告示第 523 号を根拠に
重訪は仕事中には支給しないと言っています[3]。
でも、この論理はちょっとおかしい。

藤岡弁護士

重訪を受けるのは、憲法に定められた生存権に
もとづく権利です。その人権を制限するには、
明確な法的根拠がなきゃいけないんです。

リス記者

告示第 523 号は、
その明確な法的根拠になりますか？

[3] 木村英子参議院議員の質問主意書（2019 年）に対する当時の安倍晋三総理の答弁概要より。

藤岡弁護士

ならないと思います。告示第 523 号は、
行政がヘルパー派遣事業所の報酬単位数を
定める基準にすぎないからです。

リス記者

そうなんですね……！（驚）

藤岡弁護士

それから厚労省は、重訪の仕事利用ができない
論拠の一つに「障害者差別解消法で合理的配慮は
民間事業所の義務となっている」ことを挙げました[4]。

藤岡弁護士

でも障がい者のヘルパーは法律で
要資格と決められた職ですよね。企業に用意させる
のは、合理的配慮を超える過重な負担でしょう。
国の論拠は説得力がないですね。

リス記者

2021 年の国会でも、重訪は「経済活動に対する
支援は対象としていない」と厚労省は言っていました。

[4] 2022 年 1 月 11 日、障害者自立支援法違憲訴訟団と厚労省の第 12 回定期協議より。

リス記者

なんだか、障がい者が公費の福祉サービスを利用してお金を稼ぐのをタブー視しているように思えます。

藤岡弁護士

本来なら、タブー視することじゃないと思います。仕事中の介助は障がい者の心身を援助しているだけ。営利企業の事業自体は手助けしてないですよね。

リス記者

そうですよね……。2年前に新しく就労支援特別事業[5]ができましたが、使える自治体はほんの少しです[6]。住む場所によって、障がい者の間に差が生まれてしまいます。

藤岡弁護士

今の制度設計では、自治体にも財源負担があり、それでもやるかどうかの判断が、自治体に委ねられているからですよね。

リス記者

はい。前からある職場介助者への助成金も同じように、申請するかどうかの判断は企業に委ねられています。

[5] 通勤・勤務中の介助費の大半を国と自治体が負担する。P.14,75 参照
[6] 厚労省によると、2021年時点で約1700ある全自治体のうち16自治体が導入（2022年2月16日付朝日新聞）

藤岡弁護士

だからどちらも使われにくい。今のままだと、障がい者は自治体や企業に「どうにか働かせてください」とお願いベースしかないですよね。

リス記者

障がい者の立場は、かなり弱いですよね。

藤岡弁護士

重訪の仕事利用ができるようになれば、企業側は負担がないので、採用しやすくなります。

藤岡弁護士

重訪を仕事利用できる、シンプルな仕組みに変えていくべきでしょう。

まとめ

今ある障がい者の仕事に関する政策は、利用が企業や自治体の判断に委ねられています。でも藤岡弁護士が話すように、介助は生命維持に必要なもの。仕事中も保障されるべき権利と言えます。この考え方をもとに制度を運用すれば、わたしたちの「はたらく」選択は実現するんじゃないかと感じました。

みんなの「はたらく」座談会

介助付き就労ができる環境は、
今のところ整っているとは言えない。
だからと言って、動かないままじゃ、仕事はできない……。
いったいどうしたらいいの？
―― つい最近までそんな“無限ループ”にいたウサギさんと、
就活経験のあるリスさん、仕事の経験のあるクマさん。
「はたらく」ことについて話題が尽きない３人の、
よもやま話をのぞいてみましょう。

※この記事は、実在の重度身体障がい当事者3人が
2022年２月に開いた座談会の記録です。

クマ
一般企業の事務職や、福祉施設の相談支援員で働いた経験がある。今は一人暮らしをしながら、自営業を営む。

リス
就職活動をしたが、障がいを理由に不採用が続いた。今はその経験をもとに介助付き就労の実現に向けて活動中。

ウサギ
一人暮らし準備中の社会人学生。地域の企業で事務職のアルバイトが決まりそう。

聞いて聞いて！
今、地元の不動産会社に一人暮らしの家探しを相談してるんだけど、そこの社長さんから、アルバイトしないかって誘ってもらえた！

良かったね！　でも、仕事中の介助はどうするの？

就労支援特別事業、だっけ？
うちの市がちょうど始めたから、これから申請するつもり。
ウサギさんとクマさんは就活したことあるんだよね。
どんな感じだった？

企業で働いてる介助が必要な知り合いがいなかったから、
就活のやり方からして迷ったなぁ。
だからまず、情報収集から始めたかな。

職場介助者助成金を使って働きたい！　ってアピールしたんだけど、「前例がない」「助成金を使ってまで雇用するつもりはない」って言われて……。壁は大きかったなぁ。

私はまず相談支援員に付き添ってもらいつつ、
ハローワークに相談したよ。でも、担当者が企業側に
「トイレ介助が必要」と伝えるだけで
「じゃあ何もできないのでは」って思われちゃって……。

介助が必要って話をしたら、
他のスキルを評価してくれないから、
なんて言うか、屈辱的だった……。

「障がい者」の固定的なイメージ、私も感じたなあ。
書類選考の履歴書と障害者手帳のコピーを
企業に渡したときに「1級なんですね」って驚かれたり。

重度障がいがあるから、1級だから、何もできないと思われてるんだよね。ふだんの生活では気にしなかった「1級の重さ」を感じたなぁ。

「はたらけない」と思うのはなぜ?

なるほど。私の場合、社長さんは
私のふだんの様子を直接見てるから、
雇用につながったのかも。

でも、私はケガで中途障がい者になった当時、
自分が働けると思えなかったんだよね。
同じような当事者も多いんじゃないかな。

私も10代のころは、働けると思ってなかったなあ。
でも大学に入って、他の学生はいろんなアルバイトをして、
ちょっとずつ働く経験を積んでるんだなって気づいて。

でも障がい者はそれが難しいから、
いざ就職となったときに自信がないし、
周りからも働けないって言われるし。
そういう環境だから、働けないって思っちゃうんだろうね。

私はインターンシップで、タスク全部を完璧に仕上げよう!
って時間をかけちゃったんだけど、社員さんから
「力をかけるべき点とそうでない点がある」と言われて。

仕事って個人プレーじゃないから、組織の中で自分の役割
は何かって視点が大事なんだ、って初めて知ったんだよね。
そういう経験を積める場が、もっとあったらいいのにね。

「間に立つ人」がキーパーソン

二人には、就活を支えてくれる人はいた？

ハローワークの担当者が、一生懸命工夫してくれたなあ。
障がいの話から入るんじゃなくて、先に能力や経験を
説明するとか。「あなたは就職できると思うから、私も最後
まで頑張る」って言ってくれたのが、すごく嬉しかった。

この国の制度が整ってないから、
だれも障がい者雇用に理解がないんじゃないかと
絶望的な感じがするかもしれないけど、
協力者は必ずどこかにいるよね。

いい話……！　私も就活をやめて卒業するときに、
お世話になった大学のキャリアセンターの人に
「あなたは大丈夫」って言われたのが嬉しくて。

就職はできなかったけど、
私の経験をもとに社会を変えたい、って目標を
シフトできたから、今の活動ができてるなって思う。

企業とか雇用する側と、
当事者の間をつないでサポートしてくれる人が、
私たちにとってはキーパーソンで、大事な存在だよね。

働いてみてわかることもある。まずは動いてみよう！

障がい者雇用の募集って、事務や清掃とかが多いよね。
でも私は就活のとき、雑貨の商品企画がしたかった。
クマさんはどうだった？

私は民間企業でまず働きたかったから、
社会に出るには、求められている事務職から入った方が
いいかなと考えてたなあ。

「重度障がい者」って見られるだけで
社会に出る道は狭いけど、広がるまで待つのは
時間がもったいないし、動かないとますます自信が
なくなって、自分を責めちゃうかなと思ったんだよね。

今は、人とかかわる仕事、たとえばバーとかやりたい！
お酒が好きだし、人の話を聞くことができるから、
会話してリラックスできるような場所をつくりたいな。

私はいつか、講演を仕事にできたらいいな。

いいね！　人によって持ってる能力って違うし、
働いてからわかる、仕事の適性ってたくさんあるよね。
ふだん他人から介助を受ける中で、相手の気持ちを
察する力や、わかりやすく伝える力をつける人もいる。

それぞれの経験で培われた能力がある中で、
何を見つけていくかはその人次第だけど、
スタートラインに立てるようにするのが介助付き就労。
私たちが歳をとる前に、実現したいね。

「障がい」だけじゃなくて、
目の前の人をちゃんと見てくれるようになるといいな。

私たちの悩みは、他の当事者にもきっと共通してる。
みんなで一緒に、社会にアピールしていけるといいよね。

介助付き就労を実現して、働いてお金を貯めて、
いつかクマさんのバーにみんなで行こう！

対談のあとも「介助が必要でもはたらける」ことを
試行錯誤してきた経験談がたくさん。
周りから「なんでそこまでして働きたいの？」と聞かれたり
「お金稼ぐなんてすごいね！」と過剰に褒められたり。
今の社会では、誤った「重度障がい者」というイメージが
一人歩きしていると3人は話します。
一方で、周りの理解や社会が変わるという現実もあります。
はたらきたい！　と思ったら、あきらめずに動いてみましょう。

みなさんはまず、何をしていきますか？

就労支援特別事業を使うには!?

就労支援特別事業（※）は、通勤・勤務中の介助費の大半を国と自治体が負担する制度です。週10時間以上働く（またはその見込みのある）人であれば、自営業者、企業等での雇用のどちらでも使えます。各所の事務手続き負担が重いなど課題はありますが、介助付き就労のための選択肢の一つです。この制度を使うために、必要なアクションをまとめました。

※正式名称は「雇用施策との連携による重度障害者等就労支援特別事業」。詳細は厚労省資料などでご確認ください。

就労支援特別事業は、各自治体が任意で実施する「地域生活支援事業」と、国の障害者雇用納付金制度に基づく「職場介助者助成金」を組み合わせた制度設計になっています。自分が住む自治体がこの事業を導入しなければ、制度を使えません。

まずは、自分が住む自治体がこの事業を導入済みか、導入予定があるか、ホームページや窓口で確認しましょう。導入済みなら、そのまま手続きに進みます。未導入なら、まずは役所の障害福祉課で自分の仕事、介助の状況、この事業を利用したい旨を伝えましょう。仕事中に介助がないから起こる健康上の危険、担当業務の広がりやキャリアアップが介助がないことで阻害されている……など具体的に話すのがポイントです。

具体的に話すのがポイント！

役所に取り合ってもらえないときは、協力者や仲間を増やし、介助付き就労のニーズが地域にあると示しましょう。就労支援特別事業は、重度訪問介護や行動援護、同行援護といった公的な福祉サービスの利用者が対象。つまり重度身体障がい者だけでなく、視覚や知的、精神障がいのある人も使えます。同じような障がいの仲間がいなくても、地域には他の障がい当事者団体や、この事業を使いたい人がいるかもしれません。

自治体議員に働きかけるのも一手です。議員から障害福祉課に話してもらう、議会質問で取り上げてもらう選択肢もあります。議員のホームページなどから情報を集め、障がい者の就労支援の力になってくれそうな議員にコンタクトしてみましょう。

他の障がいのある仲間が地域にいるかも！

就職活動につかえる自分説明書をつくろう！

～新卒学生就職活動編～

就職活動をするうえで、相手に自分のことを説明することは必要不可欠。自分のことをまだ何も知らない相手に知ってもらう、ということをポイントに、自分は一体どんな人なのか!?　自分とじっくり向き合いながら、このシートを埋めてみよう！　埋めたシートは、企業説明会や面接で活用してみるのもオススメ！

▼シート印刷はこちら

◎自己 PR を考えよう！

学生時代、何を頑張った？

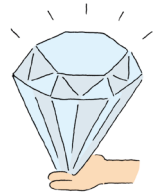
その経験はどのようなもので、今の自分にどのように影響したかを書いてみよう！

◎長所と短所を書き出してみよう！

長所も短所も自分を知る上で大切なポイント。長所・短所は表裏一体。

短所は、これからどのように向き合っていきたいかもセットで書いてみよう！

障がいによってできないことは短所ではないよ！



長所	短所
例）几帳面	例）細かい（几帳面さとのバランスを取りたいです。）

◎趣味・特技を書き出してみよう！

持っている資格や、ずっと続けていること、好きなことを書き出してみよう！

◎自分の障がいについて説明してみよう！

自分の障がいと、どのように生活しているかを書ける範囲で文章にしてみよう！

● 障がい名

● 障がいの詳細

・原因／経緯

例）先天性の〇〇（病名）です。その影響から、〇〇（症状など）の診断を受けています。

・詳細

例）日常的に〇〇（補装具など）を使用しています。

〇〇（自分ができること）は問題なく可能です。

〇〇（日常生活で介助が必要な場面を想定して）には介助が必要です。

◎働いているときに

自分に必要な介助について書き出してみよう！

実際に働いているところを想像しながら、

必要な介助について、正直に書き出してみよう！

介助者による介助が必要なこと	ちょっと手助けが必要なこと	ひとりでできること

◎配慮が必要なこと

自分に必要な配慮について、必要なことをありのままで、文章にしてみよう！

《おさえるべきポイント》

・働く上で、どんな設備が必要？（お手洗い、デスク周り、休憩スペースなど）

・どのような働き方（勤務時間や介助について）が理想？

介助付き就労ハンドブック
「なにそれ!?　介助付き就労」

発行：2022 年 3 月
一般社団法人わをん

〒 180-0005　東京都武蔵野市御殿山 2-21-14-2F
TEL：0422-24-9334
ホームページ：https://wawon.org/

私たちは、日常的に介助が必要な重度障がい者が、地域で自分らしく生きるための支援を行う、当事者と介助者の団体です。

介助付き就労ハンドブックプロジェクトチーム：
天畠大輔、嶋田拓郎、岩岡美咲、小暮理佳、登り口倫子

編　集　：篠田恵
デザイン：諫山三武（株式会社未知の駅）
イラスト：米村知倫（Yone）

公益財団法人
トヨタ財団

本報告書は、トヨタ財団 2021 年度研究助成プログラム（助成題目：「24 時間介助が必要な重度身体障がい者の就労にむけた実現戦略 ―介助付き就労を阻む社会システムの合理性を運動論から問いなおす」、代表：天畠大輔、D21-R-0042）の助成を受けたものです。謝意を表します。